

一生使う大事な「歯！」 口腔ケアに取り組みましょう

(1) むし歯の原因は3つ、だから予防法も3つ



2008年の調査では、熊本県は1歳6ヶ月児健診のむし歯の罹患率は4.3%で全国最下位、12歳児の永久歯のむし歯は2.6本と全国ワースト2位と言う結果です。

平成24年度は山都町においても、表1に示すように、乳幼児は県平均より悪い状況です。山都町では、多くの保育園において4～5歳児を対象にフッ化物洗口

を実施しています。フッ化物洗口は2～3年後に効果が現れます。表1の通り、3～5歳までは県平均より悪い状況ですが、小学校1年生では急激にむし歯の罹患率が下がっています。これはフッ素洗口の効果の一つと思われます。県内で、むし歯が少ない玉東町は平成7年からフッ素洗口に取り組んでおり、4年間で歯科の医療費が45%減少しています。

平成24年度 幼児(乳歯)～小学生(永久歯)までの一人平均むし歯本数(表1)

	3歳児	4歳児	5歳児	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
山都町	1.41	3.22	3.33	0.05	0.19	0.57	0.79	0.89	1.42
上益城管内	1.62	2.57	3.50	0.08	0.28	0.57	0.97	1.12	1.66
玉東町	0.33	0.58	1.21	0.00	0.02	0.13	0.24	0.57	0.63
県	1.40	2.23	2.94	0.11	0.36	0.53	0.76	1.00	1.33

(2) 来年度には、県下全小中学校でフッ素洗口実施を目指しています！

2010年に制定された「県歯及び口腔の健康づくり推進条例」に基づき、今年9月の県議会で、県教育長と健康福祉部長が、来年度、公立小中学校全体において、フッ素洗口実施を目指すことを明言しました。

山都町においても、現在準備を進めています。

(3) フッ素は自然の中にあって、お茶や野菜などにも含まれています。

食品 1000g 中のフッ化物量 (単位 mg)

緑茶 0.1～0.7	じゃがいも 0.8～2.8	人参 0.5
砂糖 1.7～5.6	歯磨き剤 0.2～0.4	フッ素洗口 週1回法 0.9～1.4

歯磨き剤9割にフッ素が入っています。

(4) 歯周疾患が全身に及ぼす影響

歯周病に代表される歯科疾患は、食生活や社会生活に支障をきたし、ひいては、全身の健康に影響(図1)を及ぼすことになります。

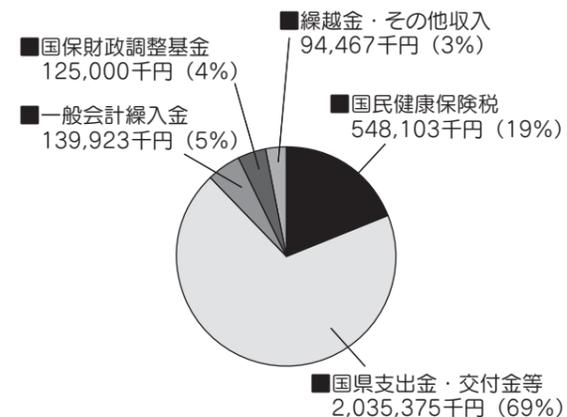
町では、「80歳まで20本の歯を保とう」という8020運動を進めています。



(図1)

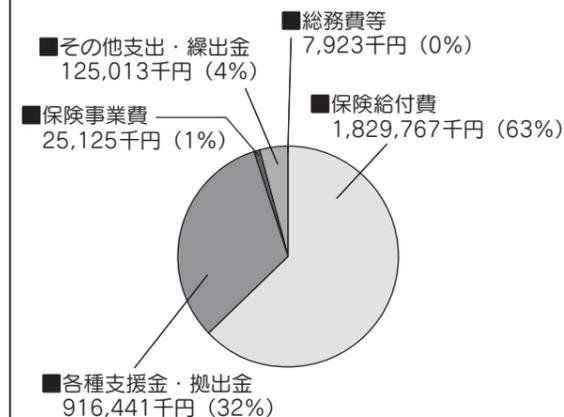
平成24年度 国民健康保険特別会計の財政状況

【歳入】29億4286万8千円



歳入	(千円)	(%)
国民健康保険税	548,103	19%
国県支出金・交付金等	2,035,375	69%
一般会計繰入金	139,923	5%
国保財政調整基金	125,000	4%
繰越金・その他収入	94,467	3%
合計	2,942,868	100%

【歳出】29億426万9千円



歳出	(千円)	(%)
総務費等	7,923	0%
保険給付費	1,829,767	63%
各種支援金・拠出金	916,441	32%
保険事業費	25,125	1%
その他支出・繰出金	125,013	4%
合計	2,904,269	100%

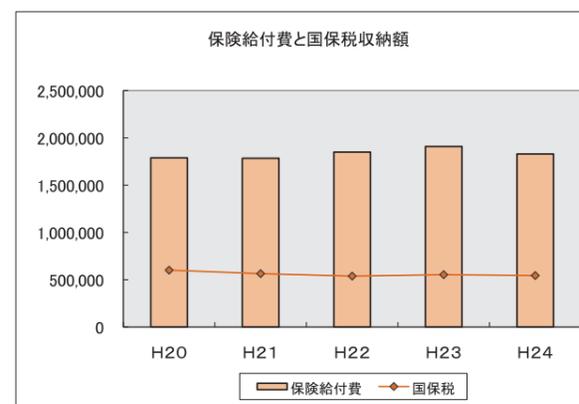
(歳入歳出：円グラフ)

○国保税は大切な財源です

国民健康保険は、病気やけがをしたときに備えて、加入者がお互いに国保税というかたちでお金を出し合い医療費にあてる助け合いの制度です。加入者全員で支えあい成り立つ制度であり、国保税は国保の重要な財源です。

安定した国保の運営を行っていくためにも、国保税の納付について、ご理解とご協力をお願いします。

○保険給付費と国保税の推移



	H20	H21	H22	H23	H24
保険給付費	1,788,535	1,784,502	1,849,628	1,908,799	1,829,767
国保税	601,098	564,077	538,101	553,166	544,131

※「保険給付費」とは、町が負担するお金で、医療費のほか高額療養費や出産育児一時金などを含む。

●お問い合わせ先
山都町役場 健康福祉課(72-1173)

医療費の節約にご協力をお願いします

- ★「かかりつけ医」を持ちましょう
日ごろから相談できるかかりつけ医がいると安心です
必要場合はかかりつけ医から適切な医療機関を紹介してもらいましょう
- ★重複受診はやめましょう
かかりつけ医をもち、よく相談しましょう
医療機関を変更すると、その都度初診料がかかります。また、何度も検査や処置・投薬などを行うと体にも負担がかかります

- ★休日や夜間の診療は控えましょう
体調をみて早めに診療時間内に受診するなどして、むやみに時間外受診は避けるようにしましょう